



1

1 所狭しと道具が並ぶ作業場／2 鐵治さんが作った紫雲石硯。原石によって硯の形も多様／3 仕上げに使う漆は自宅近くから採取。市販の物と比べ、湿度があつて乾燥時間が短いので、使い勝手がいい／4 作業場に置かれた研ぎ石／5 彫る箇所に合わせて複数ののみを使い分ける／6 紫雲石を薄く、彫る鐵治さん。職人技だ



3



4



5



6



2

## 製硯師 佐藤鐵治さん

### 素材と工程の全てを自力 風合いを生かしたものづくり

東山町田河津の佐藤鐵治さん(81)は、紫雲石硯を手掛ける製硯師。佐藤家で製硯が始まったのは今から70年以上前。雄勝硯の職人山本儀兵衛の息子幸治郎が晩年、鐵治さん宅で世話になりながら彫ったことがきっかけだ。見よう見まねで始めた祖父鐵三郎さんが初代。鐵治さんは三代目だ。

原料の紫雲石は、大船渡市から東山町夏山に走る4億年以上前の地質から産出される輝緑凝灰石。あざき色の地に浮かび上がる紫色の斑点模様が特徴だ。目が細かいことから墨との相性がよく、繊細な線を出すことができる。

紫雲石は、自宅から4キロほど北上した山中にある。上土を掘って岩を掘る。石割なたで割って目の粗さなどを確認する。延々と続く作業に「石採りが一番大変。掘ってみなければ(質が)わからない」と苦労

紫雲石は、自宅から4キロほど北上した山中にある。上土を掘って岩を掘る。石割なたで割って目の粗さなどを確認する。延々と続く作業に「石採りが一番大変。掘ってみなければ(質が)わからない」と苦労

かつて、夏山には7、8人の職人がいたが、現在は鐵治さんただ一人。肩と手にはアザやタコが絶えないが、「元氣なうちは続けたい」と笑う。彫りの技術を研究するため産地の宮城県雄勝町に通うことも。同じものが二つとない唯一無二の作品を追及し続ける。

自宅脇の作業小屋が加工場。原石を電動カッターで切り、のみを入れる。のみを構える表情は凛々しい。紫雲石の自然な風合いを損なわないよう、少しずつ彫り進める。作業場を染める赤い石がすが印象的だ。

をもらす。良質な石は、掘り出したうちの2割ほどしかない。



#### PROFILE

#### 佐藤鐵治さん

1930年東山町生まれ。教員退職後、東山町議会議員を4期務める。祖父鐵三郎さんに習い、二十歳頃から硯作りを始めたが、本格的に取り組んだのは教員退職後から。佐藤家製硯師の3代目。妻、長男夫婦、孫の5人家族。東山町田河津在住。81歳

## ILCの誘致に向け、鳩山元首相が大東町を視察

2.May 2012



鳩山由紀夫元首相は5月2日、大型加速器「国際リニアコライダー」(ILC)計画建設候補地の大東町大原地区を視察しました。リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟会長の鳩山氏は「ILCは世界に向けて復興をアピールする最大の事業だ。ぜひここで世界的な研究を進めてもらいたい」と述べました。

現地で勝部修市長は「想定されるルートの概要」地域の特性(優位性)ILC誘致による国際学術

研究都市のイメージと都市構想の策定に向けた取り組み▶北上高地(山地)の地質一などについて説明しました。

世界に1カ所だけ設置されるILCは国際プロジェクト。日米欧などの複数国が候補地になっています。今年中に国際組織が工学設計をまとめ、2013年には建設地の各国協議が始まる見込みです。

鳩山氏は前日の1日に岩手県庁を訪れ、達増拓也知事にILC誘致に協力する考えを示しています。

## みちのくひろし旅で溝畑宏前観光庁長官が一関市を訪問

10.May 2012



前観光庁長官の溝畑宏氏が5月10日、勝部修市長を訪問し、観光振興や震災復興について、熱く語りました。溝畑氏は、観光庁長官時代に自ら手がけた「東北観光博」を盛り上げるため、自転車でも東北各地を巡る「みちのくひろし旅」を展開しています。その訪問先の一つとして、当市に立ち寄りしました。

溝畑氏は4月27日に福島県新地町をスタート。一路北上して5月上旬に岩手県入りし、当市、平泉町、北上市や花巻市の観光地などを訪

れ、多くの県民と触れ合いました。

市役所で溝畑氏は「被災者への受け入れや被災地支援に誠実に対応いただき感謝しています」と語ると勝部市長は「市の役割は隣接する被災自治体の後方支援。近助の精神で取り組んでいます」と答えました。旅先の様子は、インターネットの動画配信サイト「Ustream」(ユーストリーム)で発信されています。



## 被災地から世界へ、感謝の気持ちを歌に乗せて発信

15.May 2012



一関市出身のトータル・サウンド・アーティストでティートックレコーズ(本社・東京恵比寿)代表取締役社長の金野貴明さん(35)は、このほど被災地発信ソング「未来への扉」を発表しました。

これは、東日本大震災で復興支援を受けた被災地から、世界中に感謝の気持ちを発信しようという企画。金野さんと一般参加者が「未来への扉」を歌い、CDや音楽配信サイトで世界へ発信します。

収録は6月30日の一関文化センターを皮切りに岩手、宮城、福島、茨城の4県11市町で7月29日まで行われ、9月12日に

全国発売されます。利益は、一関市内のNPO法人や国連機関などを通じて全額寄付され、世界の子供たちのために役立てられます。

金野さんは「被災地と世界の絆を一層深め、まだまだ続く復興への道のりを再認識してもらうきっかけになれば」と一緒に歌ってくれる一般参加者を募集しています。

曲は同社ホームページからダウンロードできるほか、動画サイトのYouTube(ユーチューブ)でも歌詞付きのプロモーションビデオが公開されています。

- 募集期限...6月29日◎まで
- 申し込み...☎03-5825-4371またはホームページhttp://www.t-torecords.net
- 音源の入手方法...http://www.t-torecords.net/mirai.html